デイベンロイによる工場閉鎖を許さない！

全国一般東京東部労組はメーデーの5月1日、ユニフォームやテーブルクロスなどをレンタルして洗濯・配送しているデイベンロイリネンサプライ㈱（東京都大田区）の本社である大森工場で、100人を超える部隊が参加して工場の閉鎖に反対する行動を展開した。

現在、大森工場では「老朽化による耐震性の問題」が焦点化している。同工場をめぐっては前を走る都道の拡幅計画も進んでいる。会社は工場敷地内での建て替えや近隣地での移設は「困難だ」として、商品を外注化したうえでの工場閉鎖を狙っている。働く者の雇用と生活を守る立場から、東部労組のデイベンロイ労組支部は「絶対反対」を表明している。

また、子会社のセブンズクリーナー三郷工場（埼玉県三郷市）では会社が「三郷工場の存続に向けて努力する」と同支部セブンズクリーナー分会との団交で約束しておきながら、組合に黙って「9月末での操業停止」を工場の大家と合意したことが4月の団交で明らかになった。

2つの工場閉鎖に反対するために大森工場に乗り込んだ東部労組組合員に対して、会社は門前にガードマンを並ばせて入場を妨害。工場前には警察車両が並び、制服・私服警官が多数配置されるという異様な光景が広がっていた。工場に入ろうとした組合員に会社の役員は体当たりしたり両手で突き飛ばしたりする暴力行為に及んだ。

デイベンロイ労組は1978年4月に結成し、直後のピケストをはじめ数々の闘いを通して労働者の権利と生活を職場で守ってきた。東部労組の主要な支部の1つであるとともに、地域労働運動の拠点として確立してきた。こうした組合をつぶすのが、会社の工場閉鎖攻撃の本質である。

この日の行動では、組合が昼食と経過報告の場を持つために会社4階の食堂に上がろうとしたところ、会社職制とガードマンらはピケを張って阻止。さらには私服警官を工場内に招き入れた。これに対し、組合は工場内で抗議集会を貫徹。仕事を終えた工場の労働者が次々と合流した。デイベンロイとセブンズクリーナーの組合員は「労働者を路頭に迷わす工場閉鎖を許さない」と力強くアピールした。

抗議文を提出しようと組合が役員室に上がろうとしたところ、またもや会社側が阻止したが、パート社員を含めたデイベンロイ労組支部の参加者約40人が敢然と職制の壁を打ち破って階段を駆け上がった。集会の最後にデイベンロイ労組支部の小野委員長は「今日のような会社の不当なやり方と工場閉鎖に反対するため支部はストライキを背景に闘っていく」と宣言。参加した組合員から大きな拍手がわき起こり、団結ガンバローとこぶしを天に突き立てた。

（全国一般東京東部労組　書記長　須田光照）

792号2010年6月1日